



4602/4602SW IP Telephone

リリース 1.8
ユーザーガイド

555-233-780JA
第 1.8 版
2003 年 11 月

注意

印刷の時点で、本書の内容が完全で、正確であることを保証できるよう最大限の努力を払っていますが、情報は予告なく変更されることがあります。

保証

Avaya Inc. では、この製品に対する限定保証を行っています。限定保証の詳細については、販売契約を参照してください。保証期間中の Avaya の標準保証の内容および本製品のサポートに関する情報については、以下の Web サイトを参照してください。

<http://www.avaya.com/support>

不正通話の防止

不正通話とは、許可のない者（企業の従業員、代理店、下請け会社、および代理人でない者など）による通信システムの無断使用です。システムの利用にあたっては、不正通話が行われる危険性があり、不正通話が行われた場合には、通信サービスについて相当額の追加料金が発生する可能性がある点に注意してください。

Avaya による不正通話の介入

不正通話が行われている疑いがあり、技術的なサポートが必要な場合は、テクニカルサービスセンタの不正通話介入ホットライン 1-800-643-2353 までご連絡ください（米国またはカナダの場合）。

免責条項

Avaya は、発行済みの本書に対するその内容の変更、追加、削除については、Avaya が実行したものでない限り責任を負いません。顧客またはエンドユーザーは、本書の内容に対して自らが実行した変更、追加、削除の範囲内において、それらの実行結果に起因または関連する権利の主張、訴訟、要求、審判を、Avaya、Avaya の代理店、下請け業者、および従業員に対していっさい行わないことに同意するものとします。

サポートが必要になった時の連絡先

サポートが必要な場合の各問い合わせ先については、以下の Avaya のサポート Web サイトを参照してください。

<http://www.avaya.com/support>

サービスが提供されている地域に応じて、以下のいずれかの手順に従ってください。

- 米国内の場合は、「Escalation Management」をクリックします。次に、必要なサポートの種類に応じたリンクをクリックします。
- 米国外の場合は、「Escalation Management」をクリックします。次に、「International Services」をクリックすると、各地域の主要問い合わせ先のリストが表示されます。

通信セキュリティの提供

音声、データ、ビデオ通信の通信セキュリティとは、あらゆる種類の侵入、つまり、何者かによる企業の通信装置の無断使用や悪意のあるアクセス、使用を防止することです。

企業の「通信装置」には、Avaya 製品と、Avaya 製品を通じてアクセスできるその他の音声／データ／ビデオ装置（つまり「ネットワーク装置」）の両方が含まれます。

「部外者」とは、企業の従業員、代理店、下請け企業、または代理人ではない者です。一方「悪意がある者」とは、悪意を持ってまたはいたずらを目的として通信装置にアクセスしようとする者を指しますが、アクセス許可を受けている者である場合もあります。

そのような侵入は、次のような理由で、同期（時分割多重化および回線ベース）または非同期（キャラクタ、メッセージ、またはパケットベース）の装置やインタフェースに対して、またはそれらを通じて行われます。

- 利用（アクセスした装置の特別の機能など）
- 窃盗（知的財産、資産、または料金機能へのアクセスなど）
- 盗聴（人のプライバシーの侵害）
- いたずら（問題を発生するが実害はない、不正な変更）
- 実害（有害な変更、データの損失や変更、動機や意図は問わない）

システムや、システムにネットワークで接続された装置には、許可のない侵入が行われる危険性があるという点に注意してください。また、そのような侵入があった場合は、人／データのプライバシー、知的財産、有形資産、財源、労働コスト、法的コストを始めとしたさまざまな損害を企業がこうむる可能性があることをご了承ください。

企業における通信セキュリティの責任

システムとネットワークで接続された装置のセキュリティを確保するうえでの最終的な責任は、Avaya の顧客システム管理者、ユーザー企業が契約している通信業者、およびユーザー企業のマネージャにあります。個々の義務を遂行するにあたっては、これまでに蓄積してきた知識および以下を始めとしたリソースに基づいてください。

- 設置用ドキュメント
- システム管理ドキュメント
- セキュリティドキュメント
- ハードウェア／ソフトウェアベースのセキュリティツール
- ユーザー企業と通信業者との共有情報
- 通信セキュリティの専門家

通信装置への侵入を防止するにあたっては、ユーザー企業とユーザー企業の通信業者が以下のプログラムと設定を慎重に行う必要があります。

- ユーザー企業の Avaya 製通信システムと通信業者のインタフェース
- ユーザー企業の Avaya 提供ソフトウェアアプリケーションと基底となっている通信業者のハードウェア／ソフトウェアプラットフォームおよびインタフェース
- 上記以外で、ユーザー企業の Avaya 製品にネットワーク接続されている各装置

TCP/IP 環境（設備）

製品が保証性能どおりに機能している場合でも、ネットワークの設定／設計およびトポロジーによって、製品の性能、信頼性、およびセキュリティが変わってくる場合があります。

標準規格への準拠

Avaya Inc. は、本装置の無許可の変更、または Avaya Inc. 指定以外の接続ケーブルや装置への交換、接続が原因となったラジオやテレビの干渉については、責任を負いません。このような許可のない変更、交換、接続による干渉は、ユーザーの責任で解決する必要があります。ユーザーには、Avaya Inc. が明示的に承認していない変更や改良を行うと、本装置利用に関するユーザーの権利が取り消される場合があることについて、連邦通信委員会（FCC）規則のパート 15 に従った警告がなされています。

製品安全規格

本製品は、該当する以下の国際的な製品安全規格に準拠しています。

Compliance with IEC for Electrical Equipment（IEC 電気機器安全規格適合性）（IECEE）CB-96A に記載された、関連するあらゆる各国差分規格を含む Safety of Information Technology Equipment（IT 機器の安全性）IEC 60950 第 3 版。

Safety of Information Technology Equipment (IT 機器の安全性)
CAN/CSA-C22.2 No. 60950-00 / UL 60950 第 3 版。

適宜、メキシコ国家規格 NOM 001 SCFI 1993、NOM SCFI 016 1993、NOM 019 SCFI 1998 のいずれかまたは 2 つ以上。

電磁両立性 (EMC) 規格

本製品は、以下の国際的な EMC 規格および関連するすべての各国差分規格に準拠しています。

Limits and Methods of Measurement of Radio Interference of Information Technology Equipment (IT 機器の無線干渉に関する制限と測定方法)、CISPR 22:1997 および EN55022:1998。
Information Technology Equipment (IT 機器) - Immunity Characteristics (イミュニティ特性) - Limits and Methods of Measurement (制限と測定方法)、CISPR 24:1997 および EN55024:1998。以下を含む。

- Electrostatic Discharge (静電気放電) (ESD) IEC 61000-4-2
- Radiated Immunity (放射イミュニティ) IEC 61000-4-3
- Electrical Fast Transient (電氣的ファストトランジェント) IEC 61000-4-4
- Lightning Effects (雷の影響) IEC 61000-4-5
- Conducted Immunity (伝導イミュニティ) IEC 61000-4-6

連邦通信委員会による声明

パート 15:

注：この装置は、クラス B のデジタルデバイスの制限に準拠しており、FCC 規則のパート 15 に従っていることがテストされ、確認されています。この制限は、装置を商業環境で使用したときの有害な干渉から適切に保護するためのものです。この装置は、無線周波数エネルギーを発生、使用、および放射することがあり、マニュアルに従って設置、使用されなかった場合は、無線通信に対して有害な干渉を発生することがあります。この装置を住宅地で使用すると、有害な干渉を引き起こすことがあります。この場合には、使用者は自己負担において適切な対策を講じるよう要求されます。

パート 68: 応答監視信号。

適切な応答監視信号を使用しない方法でこの装置を動作させることは、パート 68 の規則に違反します。この装置は、次の場合に公衆回線網に応答監視信号を返します。

- 呼を受けた電話機が応答した場合
- 近くにいた者が応答した場合
- 企業内システムなどの構内装置 (CPE) ユーザーが設置した録音アナウンスに配信された場合

この装置は、公衆電話交換網に戻されるすべての DID コールで応答監視信号を返します。許容され得る例外は次のとおりです。

- 呼に応答しない場合
- ビジートーンを受信した場合
- リオーダートーンを受信した場合

Avaya は、ユーザーが登録済みの装置からアクセスコードを使用して州間の交換サービスプロバイダへアクセスできることを保証します。

接続方法

公衆電話網へのこの装置の接続については、後の表に示します。

カナダ通信省 (DOC) 干渉情報

このクラス B デジタル装置は、カナダの ICES-003 に準拠しています。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada. (このクラス B デジタル装置は、カナダの ICES-003 に準拠しています。)

この装置は、カナダ産業省の端末装置に関する技術的な仕様を満たしています。これは登録番号によって確認されます。登録番号の前の略語 IC は、登録が準拠に関する宣言に基づいて行われたことを表すもので、カナダ産業省の技術仕様を満たしていることを示しています。カナダ産業省がこの装置を承認していることを示すものではありません。

準拠に関する宣言

米国 FCC パート 68 自己適合宣言 (SDoC)

米国所在の Avaya Inc. は、本書に記載されたラベル ID 番号 TIA TSB-168 の装置が FCC 規則 47 CFR パート 68 および端末接続管理協議会 (ACTA) が採択した技術基準に準拠していることをここに保証します。

また、本書に記載されたハンドセット付きの Avaya 端末装置は、補聴器への対応を定義した FCC 規則のパラグラフ 68.316 に準拠しており、補聴器に対応しているとみなされています。米国の責任者が署名した SDoC のコピーが必要な場合は、お近くの担当者までご連絡ください。または以下の Web サイトでもご覧いただけます。

<http://www.avaya.com/support>

Avaya のすべてのメディアサーバーおよびメディアゲートウェイは FCC パート 68 に準拠していますが、その多くは、SDoC プロセスが利用可能になる前に登録されたものです。Avaya の全登録製品を網羅したリストについては、以下の Web サイトを参照してください。

<http://www.part68.org>

ここで、製造者に「Avaya」を指定して検索してください。

欧州連合の準拠に関する宣言



Avaya Inc. は、本書に明記された「CE」(Conformité Européenne) マーク付きの装置が EMC 指令 (89/336/EEC) および 低電圧指令 (73/23/EEC) を含む EU 無線機器および電気通信端末機器指令 (1999/5/EC) に準拠していることを宣言します。この装置は、CTR3 基本速度インタフェース (BRI) と CTR4 一次群速度インタフェース (PRI)、および CTR12 と CTR13 におけるそのサブセットに準拠することが認証されています。

これらの準拠に関する宣言 (DoC) のコピーについては、お近くの Avaya オフィスまたは、販売担当者までお問い合わせください。または、以下の Web サイトでもご覧いただけます。

<http://www.avaya.com/support>

日本

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取扱いをしてください。

本書およびその他のドキュメントの発注先：

電話： Avaya 出版センター
電話 1.800.457.1235 または 1.207.866.6701
FAX 1.800.457.1764 または 1.207.626.7269

郵便： Globalware Solutions
200 Ward Hill Avenue
Haverhill, MA 01835 USA
ATTN: Avaya Account Management

電子メール： totalware@gwsmail.com

最新版ドキュメントは、下記の Web サイトからも確認、ダウンロードが可能です。

<http://www.avaya.com/support>

目次

本書について	ix
■ 概要	ix
■ 対象読者	x
■ 発行日	x
■ 本書の使用方法	x
■ 本書の構成	x
■ 使用する表記規則	xi
記号に関する表記規則	xi
印刷に関する表記規則	xi
■ 関連ドキュメント	xi

1	4602/4602SW IP Telephone について	1-1
■ はじめに		1-1
■ 4602/4602SW IP Telephone		1-1

2	4602/4602SW IP Telephone の使用	2-1
■ はじめに		2-1
■ 呼の発信		2-1
直前に電話をかけた番号へのリダイヤル		2-1
■ 呼の受信		2-2
■ 電話操作機能		2-2
会議通話		2-2
会議通話に登録された最後の相手の切断		2-3
保留		2-3
ミュート		2-3
スピーカホン		2-3
転送		2-4
■ ボイスメールメッセージの再生		2-5
■ 電話機のログオフ		2-5
ログオフ後の電話機への再ログイン		2-5

目次

3	電話機の管理とトラブルシューティング	3-1
■	はじめに	3-1
■	呼び出し音の解釈	3-2
■	電話機の呼び出し音パターンのカスタマイズ	3-3
	カスタマイズされた呼び出し音パターンの選択	3-3
■	表示アイコンの解釈	3-4
■	電話機のテスト	3-4
	電話機のランプと表示のテスト	3-4
■	基本的なトラブルシューティングの図	3-5
■	IP Telephone のリセットと電源のオン／オフ	3-7
	電話機のリセット	3-7
	電話機の電源のオン／オフ	3-8

索引

索引 -1

本書について

概要

本書では、新しい 4602/4602SW IP Telephone の使用方法について説明します。4602/4602SW は、簡単な操作方法で最新の電話システムの機能を提供します。IP（インターネットプロトコル）電話機の動作特性は、電話機自体ではなく、中央の電話サーバで指定されます。アップデート、新機能の追加は、電話機に対してソフトウェアのダウンロードによって実現されるため、人が介入することも、電話機を交換する必要もありません。4602/4602SW はベーシックなモデルの IP 電話機ですが、ユーザーにとっての操作性の良さなど、ハイエンドの IP 電話機が持つ多くの特性を備えています。

本書は、実際の電話機の使用法に関する 3 つの章で構成されており、電話機のボタンと機能、呼の発信および受信、ボイスメールメッセージの取得、4602/4602SW IP Telephone の正常動作を確認するための電話機のテスト／トラブルシューティングについて説明しています。

注：

- 4602 と 4602SW は、ユーザーインターフェース、機能、管理などの操作性は同じです。この 2 機種は、内部の構造のみが異なり、4602SW はイーサネットスイッチ、4602 は内部リピーターハブを備えています。
- 本書で説明するのは、4602/4602SW SIP 以外の 4602/4602SW IP Telephone です。4602/4602SW SIP IP Telephone については、『4602/4602SW SIP IP Telephone User's Guide』（ドキュメント番号 16-300035、2003 年 12 月以降に Avaya のサポート Web サイトで入手可能）を参照してください。

対象読者

本書は、4602/4602SW IP Telephone をお持ちの IP 電話機ユーザーを対象にしています。システム管理者や電話技術者向けの技術的なリファレンスガイドではありません。

発行日

本書は、2002 年 8 月に初版が発行され、2003 年 6 月にはリリース 1.7 が、2003 年 11 月にはリリース 1.8 が、それぞれ改訂版として発行されています。

本書の使用方法

本書は、論理的な方法でトピックを見つけられるように構成されています。最初から最後まで読み、4602/4602SW IP Telephone の使用方法を詳細まで理解することもできれば、目次または索引を参照し、実行するタスクや機能に関する情報を探すこともできます。

本書の構成

本書には次の章が含まれています。

第 1 章 4602/4602SW IP Telephone について	電話機の前面のボタンと機能について説明します。
第 2 章 4602/4602SW IP Telephone の使用	発信、会議、呼の転送、ボイスメールメッセージへのアクセスと再生、セキュリティ保持のための電話機からのログオフ、および電話機への再ログオンなど、呼に関連するすべての情報について説明します。
第 3 章 電話機の管理とトラブルシューティング	個別呼出音（着信音）を設定する方法、電話機の動作をテストする方法、エラーや問題が発生したときの基本的なトラブルシューティングの方法などを説明します。

使用する表記規則

本書では、内容を理解する上で役立つ、テキスト、記号、および印刷に関する表記規則を使用しています。

記号に関する表記規則



注：

この記号は、その後にトピックに関する追加情報があることを示します。

印刷に関する表記規則

本書では、印刷に関する次の表記規則を使用しています。

<u>文書</u>	下線が付いた文字は、トピックに関する追加情報が含まれるドキュメント、または本書の章や項を示します。
『文書』、「項」	かぎカッコ（『』、「」）で囲まれた斜体の文字は、外部ドキュメントへの参照を示します。
斜体	斜体の文字は、ユーザー操作の結果や、手順ごとの各ステップにおけるシステムからのレスポンスを示します。
CONFERENCE	手順の本文中に、太字で表記された単語は、押す／選択する必要がある、特定の電話機ボタンを表します。

関連ドキュメント

本書とその他の関連ドキュメントは、URL: <http://www.avaya.com/support> からオンラインで確認できます。

IP Telephone の設置については、『4600 Series IP Telephone Installation Guide』（ドキュメント番号 555-233-128）を参照してください。

4602/4602SW を机や壁に設置する場合の詳細については、『4602/4602SW IP Telephone Stand Instructions』（ドキュメント番号 555-233-147）を参照してください。

ローカルエリアネットワーク (LAN) 環境における IP Telephone システムを保守する方法については、『4600 Series IP Telephone LAN Administrator's Guide』（ドキュメント番号 555-233-507）を参照してください。

標準的な電話機能については、『The Overview for Avaya Communication Manager Software』（ドキュメント番号 555-233-767）の第 17 章「Telephony」を参照してください。

4602/4602SW IP Telephone について

1

はじめに

この章では、4602/4602SW IP Telephone のレイアウトについて概要を説明します。各機能ボタンと電話機のその他の特性を説明します。

4602/4602SW IP Telephone

4602/4602SW IP Telephone には 2 個の回線（コールアピランス）ボタン、10 個の専用機能ボタン、2 行 × 24 文字の表示エリア、片方向の聞き取り専用スピーカホンがあります。

図 1-1. 4602/4602SW IP Telephone



表 1-1. 4602/4602SW IP Telephone のボタン／機能の説明

図中の 番号	ボタン／機能の 名前	ボタン／機能の 説明
1	ボイスメッセージ ランプ 	点灯している場合は、ボイスメッセージシステムにメッセージがあることを示します。
2	表示画面 (アイコン表示なし) 	表示画面には、2 行 × 24 文字を表示できます。電話機を使用しているときは、通話中の相手の名前／電話番号が 1 行目に表示され、使用していないときは、現在の日付と時刻が表示されます。2 行目には、音量コントロール（音量矢印を押した場合）と通話時間／保留時間（アクティブなコールまたは保留呼の場合）が表示されます。転送または会議通話中は、2 行目に通話中の相手の名前と電話番号も表示されます。 1 行目には、電話機の現在の状態に応じて、すぐ下に示すいずれかのアイコンも表示されます。 アイドル。回線が使用可能であることを示します。 アクティブ。回線が使用中であることを示します。 保留。この回線で呼が保留であることを示します。 リングング。この回線に着信呼が入ってきたことを示します。 （ソフト）保留。この回線の呼が、会議または転送のために一時的に保留状態にあることを示します。
3	回線ボタン 	2 個の回線ボタンは着信呼と発信呼専用であり、次のラベルが付いています。 [a]（最初の回線ボタン） および [b]（2 番目の回線ボタン）
4	SPEAKER ()	聞き取り専用の片方向スピーカ機能にアクセスします（設定されている場合）。

表 1-1. 4602/4602SW IP Telephone のボタン／機能の説明（続き）

図中の 番号	ボタン／機能の 名前	ボタン／機能の 説明
5	スピーカ LED インジケータ	聞き取り専用の片方向スピーカホンがアクティブな場合は、ランプが点灯したままになります。
6	MESSAGES ()	ボイスメッセージシステムにアクセスします。
7	MUTE ()	アクティブなハンドセットのマイクをオフにし、通話相手に声が聞こえないようにします。
8	ミュート LED インジケータ	ハンドセットがミュートされている場合は、ランプが点灯したままになります。
9	音量コントロール ()	使用状況に応じて、ハンドセットまたは呼び出し音（着信音）の音量を調整します。
10	数値（ダイヤル） パッド	電話番号をダイヤルするための 12 個のボタンで構成される標準のボタンパッド。
11	HOLD ()	呼を保留にするために使用する赤色のボタン。
12	TRANSFER ()	別の電話機に呼を転送します。電話機がオンフックの場合は、ランプと表示画面のテストにも使用されます。
13	CONFERENCE ()	ほかの複数の相手と会議通話を設定します。電話がオンフックの場合は、個別呼び出し音（着信音）パターンの選択にも使用されます。
14	DROP ()	会議通話に追加された最後の相手を会議より切断します。
15	REDIAL ()	電話機から最後にダイヤルした番号をリダイヤルします。

はじめに

この章では、呼の発信および受信と、電話操作機能の使用方法について説明します。電話操作機能は、発信時や通話中に使用できます。これらの機能には、[CONFERENCE]、[DROP]、[HOLD]、[MUTE]、[REDIAL]、[TRANSFER]、[SPEAKER]などの電話ボタンがあります。この章では、ボイスメールボックスに残されたメッセージの再生についても説明します。

呼の発信

1. 電話をかけるには、ハンドセットを持ち上げます。
ハンドセット () アイコンが表示画面に表示されます。
2. 相手にダイヤルします。
接続されます。

直前に電話をかけた番号へのリダイヤル

リダイヤル（または最後にダイヤルした番号）機能を使用すると、最後にダイヤルした内線または外線へのダイヤリングが自動的に開始されます。

[REDIAL] () ボタンを押します。
最後にダイヤルした番号が自動的にリダイヤルされます。

呼の受信

誰かから電話があると、電話が鳴ったときにベル () アイコンが表示画面に表示されます。

呼を受信するには、着信呼の回線ボタンを押し、ハンドセットを持ち上げて話します。

ハンドセット () アイコンが表示画面に表示されて、着信呼があることを示します。

電話操作機能

この項で説明する機能は、通話中に使用できます。

会議通話

会議機能を使用すると、システム管理者が設定した人数までの会議ができます。

会議通話への参加者の追加

1. 最初の相手にダイヤルし、次に [CONFERENCE] () ボタンを押します。
通話中の呼が保留にされ、ソフト保留 () アイコンが表示されて、発信音が聞こえます。
2. 次の相手の番号をダイヤルし、応答を待ちます。
3. もう一度 [CONFERENCE] () ボタンを押して、新しい相手を会議に追加します。
4. 通話中の呼で会議する相手を登録するたびにステップ 1 ~ 3 を繰り返します。

保留呼を通話中の呼と会議させる

1. [CONFERENCE] () ボタンを押します。
現在の回線のアイコンがソフト保留 () アイコンに変わります。
2. 保留呼の回線ボタンを押します。
3. もう一度 [CONFERENCE] () ボタンを押します。
これですべての相手が接続されます。

会議通話に登録された最後の相手の切断

[DROP] () ボタンを押します。

電話会議に接続された最後の相手が呼から抜けます。

保留

保留機能を使用すると、ユーザーが通話に戻るまで呼が保留されます。

呼の保留

[HOLD] () ボタンを押します。

現在の回線のアイコンが保留 () アイコンに変わります。

保留呼に戻る

保留呼の回線ボタンを押します。

通話が再開されます。

ミュート

アクティブなコール中にミュート機能を使用すると、通話中の相手に自分の声が聞こえなくなります。この機能を使うと、通話中に随時、通話相手に聞こえないように、側にいる人達と会話できます。

通話中の相手に声が聞こえないようにする

1. [MUTE] () ボタンを押します。

これで相手に声が聞こえなくなります。[MUTE] ボタンの横の表示ランプは、ミュートがアクティブになると点灯します。

2. 双方向の会話を再開するには、もう一度 [MUTE] () ボタンを押します。

スピーカホン

片方向のスピーカホンを使用すると、ハンドセットを持ち上げないで電話を聞くことができます。[SPEAKER] ボタンを押すと、表示ランプが点灯して、聞き取り専用のスピーカホンがオンになったことを示します。

⇒ 注:

4602/4602SW IP Telephone のスピーカホンは、片方向の聞き取り専用の装置です。電話の相手の声は聞こえますが、相手にはこちらの声が聞こえません。

スピーカホンからハンドセットへの変更

ハンドセットを持ち上げて話します。

スピーカ表示ランプがオフになります。

通話中にスピーカホンをオンにする

[SPEAKER] () ボタンを押します。

[SPEAKER] ボタンの横のスピーカインジケータが点灯します。スピーカとハンドセットの両方が使用可能になります。電話の相手の声はスピーカホンを通じて聞こえますが、相手にはこちらの声は聞こえません。

通話中にスピーカホンをオフにする

随時ハンドセットを持ち上げます。

スピーカの表示ランプがオフになり、ボイスコントロールがハンドセットに戻ります。

スピーカがアクティブな場合の呼の終了

[SPEAKER] () ボタンを押します。

スピーカの表示ランプがオフになり、呼が終了します。

⇒ 注:

スピーカホン機能をオフにすることもできます。説明どおりにスピーカホンが動作しない場合は、システム管理者に連絡し、電話機のスピーカホン機能がオンになっているかどうか確認してください。

転送

転送機能を使用すると、自分の電話機から内線または外線番号に呼を転送できます。

別の電話機への呼の転送

1. 呼がアクティブなときに（または、保留呼が1つだけあり、アクティブな呼がないときに）[TRANSFER] () ボタンを押します。

呼が保留され、対応する表示ランプが点滅します。保留 () アイコンが表示され、もう1つの回線がアクティブになると発信音が聞こえます。

2. 呼の転送先の番号をダイヤルします。

呼は内線またはダイヤルした番号に発信されます。

3. 転送がある旨を告げない場合は、[TRANSFER] () ボタンをもう一度押します。応答を待つ場合は、つないだままにして、転送がある旨を伝えた後に [TRANSFER] () ボタンを押します。

2 秒間の表示メッセージが、転送が完了したことを示します。

4. ハンドセットを置きます。

ボイスメールメッセージの再生

誰かがボイスメールボックスにメッセージを残すと、電話機の上部中央にある赤色のメッセージ表示ランプが点灯します。

ボイスメールを再生するには、数値ダイヤルパッドの上の [MESSAGE] () ボタンを押します。ボイスメールシステムに自動的にダイヤルされます。

会社のボイスメールに接続されたら、標準のボイスメール再生手順に従います。ボイスメールに関するご質問は、電話システム管理者にお問い合わせください。

⇒ 注:

ボイスメール機能はオフにできます。説明どおりにボイスメールの再生が動作しない場合は、システム管理者に連絡し、電話機のボイスメールへの接続がオンになっているかどうか確認してください。

電話機のログオフ

不在時の無断使用を防止したり、複数のユーザーで電話機を共有している場合に個人的な設定・管理機能を保護するために 4602/4602SW IP Telephone からログオフします。

1. 電話機からログオフするには、[MUTE] () ボタンを押し、次にダイヤルパッドで番号 **5 6 4 6 3 3 #** をダイヤルします。

電話機の登録解除要求がサーバに送信されます。電話機がログオフの状態になり、「Ext. =」が表示されます。

ログオフ後の電話機への再ログイン

1. ダイヤルパッドを使用して内線番号を入力し、次にシャープキー (#) を押します。

パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

2. キーパッドを使用してパスワードを入力し、次に # を押します。

これで 4602/4602SW を使用できるようになります。

電話機の管理とトラブル シューティング

3

はじめに

4600 シリーズ IP Telephones はトラブルが起こりにくい設計となっています。
この章では、次の項目に関して役立つ情報を提供します。

- さまざまな呼び出し音の解釈
- 電話機の個別呼び出し音 (着信音) パターン
- 4602/4602SW の表示記号の解釈
- 正しく動作していることを確認するための電話機のテスト
- 基本的なトラブルシューティング。この項では、エンドユーザーが経験するもっとも一般的な問題と推奨する解決方法を提供します。
- 基本的なトラブルシューティングで問題が解決しない場合の電話機のリセットまたは電源のオン／オフ

IP Telephone に関するその他のすべての質問と問題については、システム管理者にお問い合わせください。

呼び出し音の解釈

IP Telephone の操作に慣れると、着信呼に応答するとき、またはハンドセットを使用しているときにさまざまな音を認識できるようになります。次の図に、聞こえる音の概要を示します。使用しているシステムにこの説明が当てはまるかどうかをシステム管理者に確認してください。

呼び出し音は着信呼があると鳴ります。フィードバックトーンは、ハンドセット（受話器）またはスピーカから聞こえる音です。

呼び出し（着信）音	意味
呼び出し音 1 回 -----	別の内線からの呼
呼び出し音 2 回 -----	外線またはシステム管理者からの呼
呼び出し音 3 回 -----	ほかの内線からの優先呼または自動コールバックコールからの呼
短い呼び出し音 (ピンという音) ---	離席機能（SAC）または可変不在転送機能がアクティブになっているため、呼がユーザーの電話機から別の電話機に転送されている。

フィードバック (ハンドセット) トーン	意味
ビジー --- ---	速く繰り返される低い音（1 分間に 60 回）で、ダイヤルした番号が通話中であることを示します。
コールウェイティングリング バックトーン ---	低い音の信号が最後に付くリングバックトーンで、電話をかけた内線がビジーであり、被呼者にコールウェイティングトーンが聞こえていることを示します。
確認 --- ---	3 つの短い断続音で、機能のアクティブ化やキャンセルが受け入れられたことを示します。
カバレッジ -	1 回の短い断続音で、呼が別の内線に転送されてカバリングユーザーが応答することを示します。
ダイヤル -----	ダイヤルを開始できることを示す連続音

フィードバック (ハンドセット) トーン	意味
インターセプト/ タイムアウト - _ - _ -	高音と低音が交互に鳴り、ダイヤルのエラーまたは要求したサービスの拒否を示します。または、ハンドセットを持ち上げてから、または前の数字をダイヤルしてから事前設定した時間（通常は 10 秒間）内にダイヤルされなかったことを示します。
リコールダイヤル - - - - -	3 つの短い断続音の後に一定の発信音が続き、要求した機能が受け入れられて、ダイヤルを開始できることを示します。
リオーダー - - - - -	1/2 秒ごとに繰り返される速いビジートーンで、電話のすべてのトランク回線がビジーであることを示します。
リングバック - - - - -	1 分間に 15 回繰り返される低い音で、ダイヤルした番号の呼び出し音が鳴っていることを示します。

電話機の呼び出し音パターンのカスタマイズ

呼び出し音選択機能を使用すると、8 つの異なるパターンから独自のカスタマイズされた呼び出し音パターンを選択できます。

カスタマイズされた呼び出し音パターンの選択

1. 電話をオンフックにして **[CONFERENCE]** () ボタンを押します。
現在の呼び出し音パターンが鳴り、3 秒ごとに繰り返されます。
2. 続けて **[CONFERENCE]** () ボタンを押してから放し、8 つの呼び出し音パターンを切り替えます。
3. 表示された呼び出し音パターンを保存するには、次に **[CONFERENCE]** () ボタンを押すまでに 7 秒間以上待ってください。

選択した呼び出し音パターンがさらに 2 回聞こえ、その後、そのパターンは自動的に保存されます。確認音（上がる音が 2 回）が鳴り、新しい呼び出し音パターンが設定されます。

➡ 注:

呼び出し音パターンの選択中にオフフックになる、呼を受信する、または電源が切れると、処理が中断されるので、ステップ 1 からやり直す必要があります。

表示アイコンの解釈

IP Telephone の表示に慣れてくると、呼の状態または電話機の状態に関連するアイコンまたは記号を認識できるようになります。次の図に、表示されるアイコンの概要を示します。使用しているシステムにこの説明が当てはまるかどうかをシステム管理者に確認してください。

アイコン	意味
アイコンは表示されない	アイドル。回線が使用可能であることを示します。
	アクティブ。回線が使用中であることを示します。
	保留。この回線で呼が保留であることを示します。
	リングング。この回線に着信呼が入ってきたことを示します。
	(ソフト) 保留。この回線の呼が、会議または転送のために一時的に保留状態にあることを示します。

電話機のテスト

テスト機能を使用すると、電話機のライトと表示画面が正しく動作しているかどうかを確認できます。

電話機のランプと表示のテスト

電話機がアイドル状態（オンフック）のときに、[MUTE] () ボタンを押して、8 3 7 8 # の順にダイヤルします。

表示画面にセルフテストの開始が示され、テストの合否が報告されます。

表示画面に何も表示されず、電話機の電源が入っている場合は、電話機を交換する必要があります。サポートとその他のトラブルシューティング情報については、システム管理者にお問い合わせください。

基本的なトラブルシューティングの図

問題／症状	推奨する解決方法
初めて接続したときに電話機がアクティブにならない	システム管理者が電話機をすでに初期化している場合を除き、操作可能になるまでには数分間かかります。プラグを差し込むと、電話機は接続先のサーバから、動作ソフトウェア、IP アドレス、システム管理者がプログラムした特別な機能のダウンロードをただちに開始します。8 ～ 10 分以上かかる場合は、システム管理者に報告してください。
電源供給の中断後に電話機がアクティブにならない	プラグを引き抜いた後、電話機の電源を切った後、サーバに問題が発生した後、またはその他の電源の中断が発生した後は、再び初期化されるまで数分間待ってください。
電話機が以前は動作していたが現在は動作しない	システム管理者にお問い合わせください。
表示画面に文字が表示されない	前述の「初めて接続したときに電話機がアクティブにならない」を参照してください。 電話機のすべてのコード類をチェックして、正しく接続されていることを確認します。 電源をチェックして、電話機に電源が供給されていることを確認します。 次のテスト手順を実行します。電話機がアイドル状態（オンフック）のときに、[MUTE]（）ボタンを押して、8 3 7 8 # の順にダイヤルします。表示画面にセルフテストの開始が示され、テストの合否が報告されます。電話機の電源が入っているのに表示画面に何も表示されない場合は、電話機の交換が必要な可能性があります。 前述の推奨する解決方法では問題が解決しない場合は、システム管理者にご連絡ください。電話機をリセットする、または電源をオフにした後にオンにするには、この章の IP Telephone のリセットと電源のオン／オフ を参照してください。
表示画面にエラー／情報メッセージが表示される	ほとんどのメッセージには、サーバ／電話機のやり取りが関連しています。受信したメッセージに基づいて問題を解決できない場合は、システム管理者に解決を要請してください。

問題／症状	推奨する解決方法
オーディオ品質が低い。特に、ハンドセットの使用中にエコーが聞こえる、突然音声途切れ、その状態が続く（会話の途切れ）、スピーチが音飛びしたり、ひずんだりする	この問題はネットワークのさまざまな問題によって発生します。 LAN 管理者に連絡し、問題をできるかぎり完全に説明します。
発信音が聞こえない	ハンドセットと回線コードの両方が電話機にしっかりと接続されていることを確認します。電話機のプラグを引き抜いて接続し直した場合に、動作にわずかな遅延が発生する場合がありますをご了承ください。 電話機をリセットします（詳細については、IP Telephone のリセットと電源のオン／オフの項を参照してください）。 前述のステップを実行しても希望の結果が得られない場合は、システム管理者にお問い合わせください。
電話機が鳴らない	音量コントロールキーを使用して、呼び出し音量を高いレベルに設定します。 別の電話機からユーザーの内線に電話をかけ、前述の推奨する解決方法をテストします。
スピーカホンが動作しない	スピーカホンがオフになっているかどうかシステム管理者にお問い合わせください。 注：スピーカホンは片方向の聞き取り専用であるため、オンになっている場合は、相手の声は聞こえますが、相手にはこちらの声は聞こえません。
機能が本書のとおり動作しない（たとえば [MESSAGE] ボタンが説明どおりに機能しない）	手順を確認して、もう一度実行してください。一部の機能では、最初にハンドセットを持ち上げて、電話機をオフフックにする必要があります。 前述の処置を行っても希望の結果が得られない場合は、システム管理者にご連絡ください。電話機システムが、その設置だけに適用される特定の機能用にプログラムされていることもあります。また、一部の機能がコールサーバ上でオフになっている可能性もあります。
IP Telephone に関するその他のすべての問題	システム管理者にお問い合わせください。

IP Telephone のリセットと電源のオン／オフ

ほかのトラブルシューティングの推奨手順を使用しても問題が解決されない場合、またはシステム管理者にリセットするよう助言された場合は、IP Telephone をリセットします。

⚠ 注意：

電源のオン／オフは、システム管理者の許可があった場合、また、リセットでは問題が解決できない場合にのみ使用します。電源のオン／オフによって、オプションや設定などの格納された情報が失われることがあります。

電話機のリセット

この基本的なリセット手順で、ほとんどの問題が解決されるはずです。

1. **[MUTE]** () ボタンを押します。
2. ダイヤルパッドを使用して、**73738#** の順にキーを押します。
表示画面にメッセージ「Reset values? * = no # = yes」が表示されます。
3. 次のどちらかのオプションを選択します。

目的

設定値を初期化しないで電話機をリセットする

設定（プログラムされた）値を初期化して、電話機をリセットする

（電話機に静的な値（スタティック IP アドレス）が設定されている場合に推奨されるオプションです）

操作

*（アスタリスク）を押します。

確認トーンが聞こえ、プロンプト「Restart phone? * = no # = yes」が表示されます。

#（シャープキー）を押します。

IP Telephone が、IP アドレスなどプログラムされた値をデフォルト値に戻し、サーバへの再接続を行っている間は、表示画面にメッセージ「Resetting values」が表示されます。表示画面にプロンプト「Restart phone? * = no # = yes」が表示されます。

4. # を押して電話機をリスタートするか、* を押して電話機のリスタートを止めて、前の状態に戻します。

⇒ 注：

電話機のリセット／リスタートには数分間かかることがあります。

電話機の電源のオン／オフ

基本的なまたはプログラムされたリセット手順を実行できない場合、または実行しても問題が解決されない場合は、システム管理者の許可を受けたうえで電源のオン／オフを実行します。

1. 電話機のプラグを引き抜き、再び差し込みます。

電話機の接続が再び確立されます。

2. 電源のオン／オフによって問題が解決されない場合は、システム管理者は、電話機の電源ケーブルとイーサネットケーブルの両方を引き抜いてより厳密な電源のオン／オフを実行できます。

 警告：

ステップ2 で説明したタイプの電源のオン／オフには特定の値の再プログラムが必要なため、システム管理者以外の方は実行しないようお願いします。

索引

数字

4602/4602SW IP Telephone

使用 [2-1](#)

前面図 [1-2](#)

について [1-1](#)

はじめに [1-1](#)

ボタン／機能の説明 [1-3](#)

4602/4602SW IP Telephone について [1-1](#)

4602/4602SW IP Telephone の使用 [2-1](#)

C

[CONFERENCE] ボタン [1-4](#)

D

[DROP] ボタン [1-4](#)

H

[HOLD] ボタン [1-4](#)

I

IP Telephone のリセットと電源のオン／オフ [3-7](#)

M

[MUTE] ボタン [1-4](#)

R

[REDIAL] ボタン [1-4](#)

お

音量コントロールボタン [1-4](#)

か

会議通話機能 [2-2](#)

会議通話に登録された最後の相手の切断 [2-3](#)

解釈、表示アイコン [3-4](#)

解釈、呼び出し音 [3-2](#)

回線ボタン [1-3](#)

こ

呼の参加者の追加 [2-2](#)

呼の受信 [2-2](#)

呼の発信 [2-1](#)

呼の保留 [2-3](#)

さ

再生、ボイスメールメッセージ [2-5](#)

す

スピーカ [1-3](#)

スピーカ LED インジケータ [1-4](#)

スピーカがアクティブな場合の呼の終了 [2-4](#)

スピーカホン、アクティブな場合の呼の終了 [2-4](#)

スピーカホン、通話中にオフにする [2-4](#)

スピーカホン、通話中にオンにする [2-4](#)

スピーカホン機能 [2-3](#)

せ

前面図、電話機 [1-2](#)

ち

直前に電話をかけた番号へのリダイヤル [2-1](#)

つ

通話中の相手に声が聞こえないようにする [2-3](#)

て

転送機能 [2-4](#)

電源のオン／オフと IP Telephone のリセット [3-7](#)

電話機の管理とトラブルシューティング [3-1](#)

電話機のテスト [3-4](#)

電話機の復元、ログオフ後 [2-5](#)

電話機の呼び出し音パターンのカスタマイズ [3-3](#)

電話機のランプと表示のテスト [3-4](#)

電話機のログオフ [2-5](#)

電話操作機能 [2-2](#)

と

トラブルシューティング [3-1](#)

トラブルシューティング、基本的な図 [3-5](#)

は

ハンドセット、スピーカホンからの変更 [2-4](#)

ひ

表示エリア、説明 [1-3](#)

表示の解釈、アイコン [3-4](#)

へ

別の電話機への呼の転送 [2-4](#)

ほ

保留機能 [2-3](#)

保留呼に戻る [2-3](#)

保留呼を通話中の呼と会議させる [2-2](#)

ボイスメールメッセージの再生 [2-5](#)

ボイスメッセージボタン [1-4](#)

ボイスメッセージランプ [1-3](#)

ボタン／機能の説明 [1-3](#)

み

ミュート LED インジケータ [1-4](#)

ミュート機能 [2-3](#)

よ

呼び出し音パターン、カスタマイズ [3-3](#)

ろ

ログオフ後の電話機への再ログイン [2-5](#)